



創刊号

創刊号に寄せて

会長 大東 洋志

長く暖めていた会誌の発行が実現して非常に嬉しく思います。時間的な制約を受ける会員の努力を期待します。

何を今更との観もありますが最近の社会経済状況を反映して会の組織・経済力、そして活動が鈍くなるなかで何とかして会員の気力を高める意味でこのような貧弱な会誌でも役に立つと信じております。

反面我々は通常研修を受けなければその技術力を評価してもらえ無いという現状を打破するためにも研修会や技術情報を得る一つの情報源としても意義があると思います。

私たちの活動は総合力で評価されますが一人の力には自ずと限界があります。そのためにも技術マネジメントが出来る集団として世間に認めて欲しいものです。

そして今何よりも必要なことは、技術の基礎をしっかり身につけることだと思います。あらゆる分野で活躍する技術者の心の拠り所として、また夢が語られる技術者の養成のためにも県下会員、非会員を含めて全ての機関の組織力をあげて活動して行きたいと考えます。

最後に皆様のご健康とご活躍を祈念して居ります。

顧問団を代表して

顧問 黒瀬 正行

今回、会長の発案で長崎県技術士会機関誌第一号が発刊されることになり喜ばしいことです。情報化の時代にあっても活字を読むことは脳の活性化に繋がることでもあり今後紙面の充実を期待します。

さて、創刊号が出来るので私も技術士になった頃のことを思い出して一文を寄せます。

私が技術士試験に合格したのは昭和35年(1960)です。冶金出身の私が建設部門の土質及び基礎に合格できたのは全て当時九州大学土木の内田一郎教授のご指導教育によるものです。九大の学生でもないのに本当に親身になって教えて下さいました。

合格発表の日新聞を持って「良かったね黒瀬君、おめでとう」と言われました。こんな感激は又とありません。

その後、日本で初めてというサンドドレーン、ウエルポイント併用という有明海沿岸軟弱地盤対策、形持梁を単純梁に置き換えて断面を小さくした擁壁工法、髪を止めるヘアピンを応用した補強土工法、大型コンクリートブロックによる切土斜面安定工法、そして東大名誉教授三木五三郎先生の指導による発泡スチロールの土木への応用など私の考えたことが現存しております。

当時、冶金出身の私がいくら良い考えを発表しても受け入れてもらえない土木の世界で、技術士会の九州支部長、本部理事、本部副会長まで務めることが出来たのも内田、三木両先生の薫陶のお陰と感謝いたしております。

「理論を現場に適用して社会に尽くす」これこそ技術士の本命ではないかと考えます。技術士は自分の持っている技術を社会に役立てることが使命です。そのためには理論だけでは空理空論と云われる結果になります。

環境カウンセラー登録応募に関して

藤永地建 永濱 伸也

\*\*はじめに\*\*

昨今環境に対する世間の関心が高まる中で環境保に取り組む人たちに適切な指導を行うことの出来る人材を環境カウンセラーとして登録する制度が実施されておりますので私の経験もふまえて紹介します。

1. 環境カウンセラーとは

「環境カウンセラー」は「環境カウンセラー登録制度実施規程」(平成8年環境庁告示第54号)に基づき、環境庁が実施している登録制度です。事業活動(事業者部門)や市民活動(市民部門)の中で環境保全に関する取り組みについて豊富な実績や経験を有し、更に一定の要件を備える方々は申請をして審査(論文、面接)を受けると登録されます。その登録簿はインターネットを通じて公表されます。

また環境カウンセラーは自発的な環境保全活動の啓発・促進に関して行政では担えない特別な役割を果たす人材として位置付けられています。

2. 私の応募の動機

私は応用理学部門(地質)の企業内技術士として品質管理責任者の立場でISO9001の認証を取得した所であり、現在品質管理を切り口にしてリスクマネジメントに取り組んでいます。加えて社会環境管理・労働安全衛生管理も会社にとってリスク低減のために不可欠であることから総合マネジメントシステムの構築のため、ISO14000及びOHSAS18000の総合受審を計画中です。

一方、生活基盤である地域社会(町内会世帯数780)では住み易い社会環境の整備、青少年の健全育成、福祉活動に長年ボランティアとして関わっていること、最近では環境カウンセリング協会長崎の活動にも参加しています。

このような観点から応募することによって自らに義務を課すことが有意義であると考えた次第です。

3. 環境カウンセラーの役割

環境カウンセラーとしての具体的な活動は以下のように考えられています。

(事業者部門)事業者に対する環境保全の具体的な対策や助言、特に「環境活動評価プログラム」などに関する相談は環境マネジメントを構築していない組織にとっては欠かせないもので有効な活動の一つです。

(市民部門)市民や団体からの環境に関する相談について助言、学習の講師、取り組みの企画運営に携わる。詳しくは<http://www.env.go.jp/policy/j-hiroba/PRG/>を参照して下さい。

4. 登録応募の方法

環境省の「環境カウンセラー」ホームページを参照していただくと良いのですが、申請は毎年9月1日から9月30日までです。書面審査結果が12月末にでて、更に面接が行われて結果が3月末に通知されて登

今後とも技術者集団として事に当たりましょう。

#### 5. その他

これは登録制度であって「資格」ではありませんので念のため申し添えます。

#### 最近の「温泉」事情

ニチボー 山口 和登

最近、書店に行くとき温泉に関する雑誌、ガイドブック等がやたら目につく。その雑誌を見ると全国各地の温泉施設（旅館、ホテル、スーパー銭湯等）が数多く紹介されている。更に今後新規にオープンする施設の情報も多くあり、一種のブームである。

この状況は今般の世の中の不景気と密接に繋がっていると思われる。すなわち、世の不景気のため、多くの人は気分でもリフレッシュし、かつ体にいい事をしたいと願っているものの、予算（お金）がない。このため、遠くへの旅行やお金のかかるスポーツ（例えばゴルフやスキー等）は敬遠されがちである。そこで多くの人は考える。近くで安く、かつ気分がリフレッシュし、体にいいものはないだろうか。

その結果、近場の温泉にでも行こうかと考えるわけである。多少奮発して、一泊旅行にでも行こうかと考えた場合でも、贅沢な気分を味わうためには温泉は必須条件である。一泊の余裕のない人もせめて先に述べた様な気分を味わいたいと考える人が多い為、最初に述べた温泉施設に関する雑誌が多く出版され売れている訳である。

福岡市及びその近郊は温泉施設のオープンラッシュである。但し、これは先に述べた事情に乗った一種のブームの様に見える。これと同じ様な現象は過去にも多く見られた。例えば、昭和40年代のボーリングブーム、バブル全盛期のゴルフ場建設ブーム、更にはハウステンボス等の大型レジャー施設建設ブームである。これら過去のブーム時と現在とが基本的に違う点は世の中が当時と比べて不景気な事である。

しかし、過去の教訓から学べば、このブームもいつか去る時が来てその時生き残れるのはほんの一部であることは紛れもない事実であろう。この時生き残る為には、多くの条件や施策、対策があるが、ここでは紙面の都合で別の機会に譲るとしたい。

ところで、私は応用理学部門のそれも地質を専門とする技術士であるが、専門分野から見た最近の温泉ブームについても技術的に多くの問題がある。この点についても別の機会に述べるとして、今後は多方面からこのブームが健全な形で続くように活動したいと思っている。

録と云うことになります。

#### 役員について

事務局

去る2月7日、役員勤務地の変更や会社の長期出張などでその任務を遂行出来なくなったとの理由で交代の申し出があったため臨時総会を開催して役員改選を行った結果下記の方々が15年度の役員として承認されました。

尚、会員各位には別便にて結果が送致されていますが重ねて記載します。

#### 記

##### 1. 長崎県技術士会役員

顧問	黒瀬 正行	(建設)
同	野々下 金	(応用理学)
同	福岡 辰義	(建設)
会長	犬束 洋志	(建設)
副会長	平原 宏志	(建設)
監事	本田 圭助	(機械)
同	松竹 英雄	(建設)

##### 2. 日本技術士会九州支部

代表幹事	大橋 義美	(建設)
幹事	平原 宏志	(建設)

##### 3. 九州地方技術士センター

理事	山口 和登	(応用理学)
同	永濱 伸也	(応用理学)

##### 4. 長崎県技術士会CPD委員会

委員	小松 和彦	(建設)
同	樋口 敏昭	(下水道)
同	大橋 義美	(建設)
同	永濱 伸也	(応用理学)
同	平原 宏志	(建設)

#### 編集後記

創刊号は独断と偏見でまとめた。表題に工夫が足りなかったがCGに詳しい方にやり直してもらいたい。

情報過多の時代だけれども機関誌は必要と思うので今しばらくは年に4回季刊の形で発行してみたいと思います。会員の御協力を御願います。

世界はイラク問題で危機感が募りますし、国内の不況は今後も続くと考えなくてはならないでしょう。

今、我々技術者が何が出来るのか、しなければならぬのか考えるときです。

お互い健康に留意して努力しましょう。

事務局

住所 852-8136 長崎市家野町9-9

電話 095-848-1211

FAX 095-847-8144